

研究テーマ	自分のイメージを広げる素材との出会い・交流の場の工夫 ～第2学年「キラキラシャボン」の実践を通して～
-------	---

石岡市立東小学校 教諭

I 研究テーマについて

新学習指導要領の共通事項では、「自分の感覚や行為を基に、形や色などの造形的な特徴を理解すること。形や色などの造形的な特徴を基に自分のイメージをもつこと。」が示されている。それは、児童が対象や事象に主体的に関わるようになることであり、そのためには、素材との最初の魅力的な出会いが大切であると考えられる。よって、本研究における「素材との出会いを工夫する」とは、導入時に、素材の特性やよさをどのように感じ取らせていくか、その手立てとしてどのような活動を取り入れていけばよいかを探ることとする。また、製作していく中で自分のイメージをより確かなものとしていくためには、「話す」「聞く」「言葉で表現する」など友人との対話を通しての言語活動を適切に位置付けていくことが必要である。児童は、友人と関わる中でこれまでの見方や感じ方が変わり自分の表現に直ちに取り入れることがある。表現と鑑賞を一体化させることは、自分の表現や見方をより深く捉え、新たな発想、技能の手掛かりを得ることにもなる。以上のことより本研究における「交流の場を工夫する」とは、児童が互いに関わり合える場をどの場面に設定するか、また、児童が積極的に関わるためにはどのような手立てが効果的であるかを探ることとする。

II 研究の実際

1 題材名 キラキラシャボン

2 題材の目標

- 泡で模様をつくり、できた模様の形に関心をもちながら絵に表すことを楽しもうとする。
(関心・意欲・態度)
- できた泡の模様から自分の表したいことを思い付いて、好きな色を選んだり、形を考えたりすることができる。
(発想や構想の能力)
- 見つけたお話に合わせて色を選んだり、表したいものの描き方を工夫したりすることができる。
(創造的な技能)
- 感じたことを話したり、聞いたりしながら形や色、表し方の面白さなどに気付くことができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童の実態 (27人 平成30年5月)

図工は好きか。	好き18 少し好き4 あまり好きでない3 好きではない2
友だちの作品を見るのは好きか。	好き9 少し好き11 あまり好きでない5 好きではない2
作っている途中で友だちの作品を見てみたいと思うか。	見たい15 少し見たい8 見たいと思わない4
作っている途中で困ったときどうしたか。 (困ったことがあった24人) (複数回答)	友だちに聞いた7 友だちのやりかたを見た7 黒板を見た6 自分で1 無答3

図画工作科に対する関心は比較的高く、楽しみにしている児童が多い。しかし、思い付くまま形にし、表現することのできる児童もいれば、思いをどう表したらよいか表現できずにいる児童もいる。すぐに形に表せない児童は、話を聞いていくと何かしら児童なりにイメージして

いることが多い。このことから、友人との対話の場を適時設定することで具体的な表現の手立てを見つけ、自らイメージをもちながら活動していけるのではないかと考えた。「見たい」「知りたい」「聞きたい」「話したい」と児童が願う場面を設定していくことでテーマに迫りたい。

(2) 題材観

本題材は、絵の具を水で溶き石鹸で泡立てた模様を用紙に写し取り、その模様からイメージを膨らませ作品にしていくものである。児童は、1年生の生活科でシャボン玉を経験しており、その楽しさをよく知っている。立体のシャボンが色つきの模様となって平面に写し取れるこの活動は、児童にとって新たな試みである。偶然から生じた模様は、視点を変えることによりいろいろな話を想像することができる。模様づくりの時間を十分確保することで模様の面白さや美しさを感じながら、さらに想像を広げることができるのではないだろうか。

(3) 指導観

導入時において、素材と十分に触れ合う時間を設ける。手で泡立て、手触りや泡の感触をまずは十分に楽しむ。次に、偶然にできた泡の形から想像する見立て遊びを行う。いろいろな形から想像し、イメージを広げる体験を友人と共有することで、個々のものの見方や感じ方をさらに広げるような活動としたい。また、作品製作途中においても、友だちと対話する場面を適時取り入れ、さらにイメージを広げたり、技法を学んだりする機会とする。見通しをもって活動することで自分のイメージを確かなものとし自信をもって作品作りが行えるようにしたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
泡でできた模様や形に関心をもちながら表すことを楽しもうとする。	できた泡の模様から自分の表したいことを思い付いて、好きな色を選んだり、形を考えたりすることができる。	見つけたお話に合わせて色を選んだり、描き方を工夫したりすることができる。	感じたことを話したり、聞いたりしながら形や色、表し方の面白さなどに気付くことができる。

5 指導と評価の計画（8時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	①手で泡立てて形を作り、見立て遊びをする。	・泡でできた形に関心をもちながら表すことを楽しもうとする。 ☑【活動の様子・作品】
第2次 ⑥	①ストローで泡を作り、模様を紙に写し取って遊ぶ。 ②泡を重ねたり、台紙を替えたりして泡で遊ぶ。 ③泡の形や色からお話を考える。 ④⑤⑥想像したお話をもとに、かき方を考えて絵に表す	・できた泡の模様から自分の表したいことを思い付いて、好きな色を選んだり、形を考えたりすることができる。 ☑【発表・活動の様子・ワークシート】 ・見つけたお話に合わせて色を選んだり、描き方を工夫したりすることができる。 ☑【活動の様子・作品】
第3次 ①	①自分や友人の作品の表し方のよさを見つれたり、話し合ったりする。	・感じたことを話したり、聞いたりしながら形や色、表し方の面白さなどに気付くことができる。☑【活動の様子・ワークシート】

6 指導の実際

学習内容および児童の活動・反応

第1次 手で泡立てて形を作り、見立て遊びをする。



あわあわふしぎ 作ってみよう

モニターで確認しながら泡作りのイメージをもつ。



怪獣に見える
くもみたい
自分で作るの？
どうやって作るの？
早くやってみたい

一人一人泡立てる。

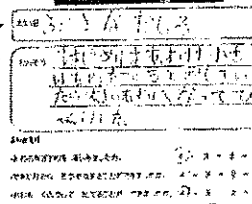
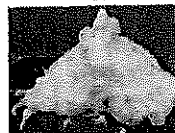


できた泡を粘土板にのせる。

題名：「何に見えるかな？」

- ・くもの木
- ・花のケーキ
- ・大きな町
- ・じっとしている鳥
- ・ソフトクリームのにしろ
- ・あわあわドラゴン
- ・ゆきのふわふわ山

あわあわふしぎ



感想：「ふりかえってみよう！」

はじめはむずかしかった
ふわふわが気持ちよかった
あわがくもに見えた
どんどんあわがふえた
家でもやってみたい
みんなでやったら楽しかった

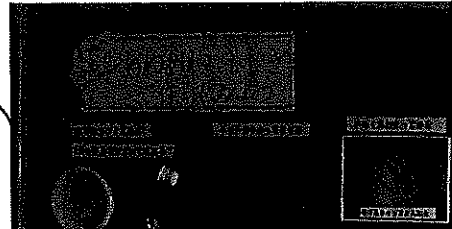
みんなで合わせてみる。



気持ちいい
合わせると楽しいね
あわがふえたね
何作ろうか
ふわふわだね

教師の支援・配慮事項および評価

○普段の生活において泡を作るときどのようにしているかを児童の考えを引き出しながらイメージをもたせるようにする。



材料・用具

- 削った石鹸 (ひとつまみ)
- 水 (ヨーグルトカップ1杯分)
- 洗濯のり (キャップ3杯分)
- 洗面器

○材料の分量や方法は、モニターで提示し課題提示から活動開始までを短時間で行うようにする。

○泡の感触を十分に楽しみながら、泡のもつ不思議さや面白さが感じ取れるようにする。

○偶然できた形から、自分のイメージを広げ、お話を想像していけるようにする。

○友だちと泡を合わせたり交流したりしながら、さらにいろいろな見方を知る機会となるよう配慮する。

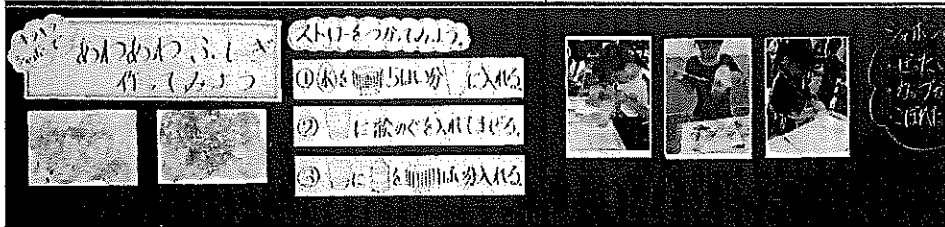
◎泡でできた形に関心を持ちながら表すことを楽しもうとする。

関【活動の様子・作品】

第2次 絵の具を溶いたシャボン液をストローでぶくぶくさせ、できた模様からお話を考え、絵に表す。

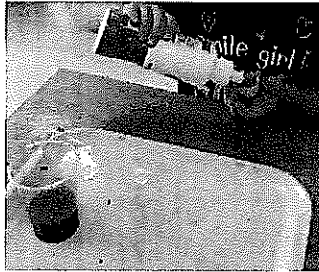
あわあわふしぎ 作ってみよう

- ①ストローで泡を作り、模様を紙に写し取って遊ぶ。
- ・泡のもつ不思議な感じをとらえる。



- 前時を思い起こさせながら、本時への関心を高めておく。
- 模様を提示し、泡のもつ不思議さを感じ取らせるようにする。

・絵の具を溶いてシャボン液を作る。



色水を作って 洗剤キャップ1杯

泡の形になったよ 模様がきれいだな

・泡を作って紙に写し取る。



この色いいな 泡がたくさんできたくもみたい



お花に見える 他の色のお花も作ろう

- ②泡を重ねたり、台紙を替えたりして泡で遊ぶ。



泡の上に別の色の泡を

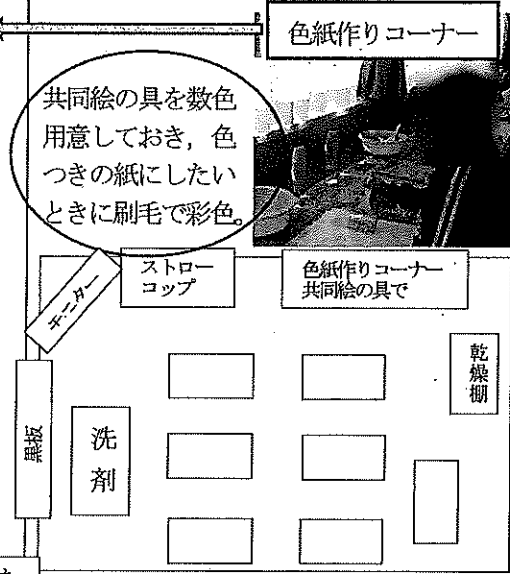


色つきの紙の上に2色の泡を

材料・用具

- 水 (キャップ5杯分)
- 絵の具
- 洗剤 (キャップ1杯分)
- 長いストロー
- コップ
- 画用紙

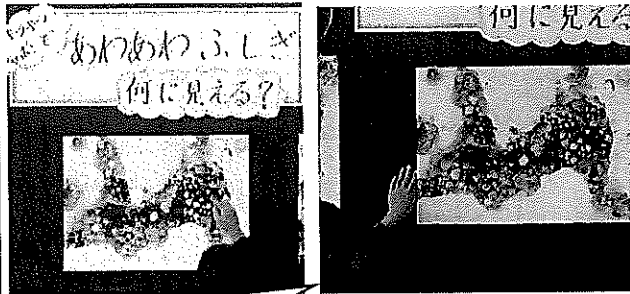
- 泡の模様を作る面白さが楽しめるように画用紙を複数枚用意しておく。
- 紙への写し取りが一人では難しい児童には友だちと協力して行うことを伝える。
- 絵の具の色や紙の色を変えたいという児童が出てくることが予想されるので、コーナーを用意しておく。



共同絵の具を数色用意しておき、色つきの紙にしたいときに刷毛で彩色。

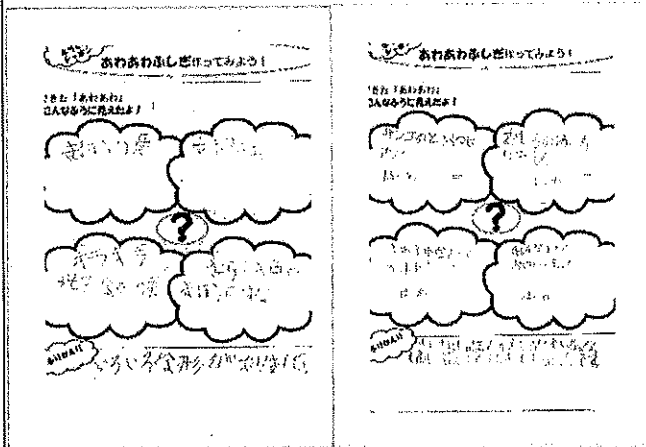
③泡の形や色からお話を作ろう。

・参考作品を使ってみんなで「何に見えるか」話し合う。

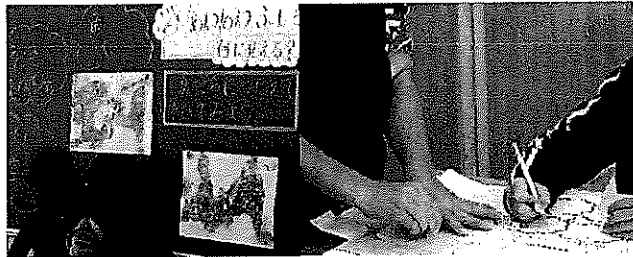


空手の人 犬 魚 波 海 ドラゴン
うさぎ ねずみ 飛んでいる鳥

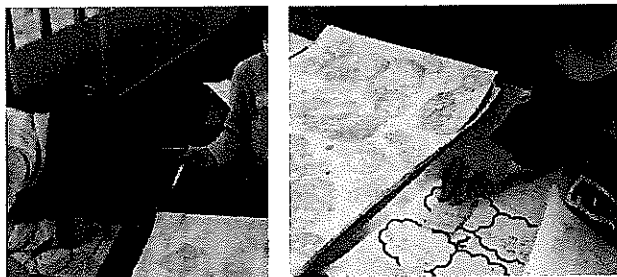
・自分の作品について「何に見える？」ワークシート記入



・友だちと交流し、いろいろな見方を知る。



・友だちと話したり、付箋に感想を書いたりして交流。

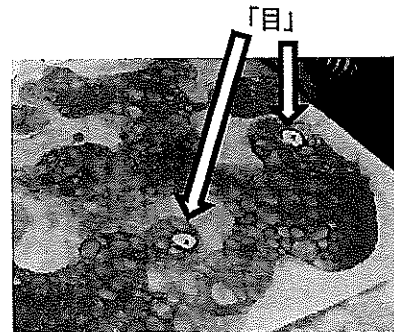


○全体で見立てごっこをすることにより、一方向からだけでなく、用紙を回転させるなど、いろいろな見方があることに気付かせるようにする。

○友だちの考えを聞き合ったり、話し合ったりすることでいろいろな見方を楽しめるようにする。

○具体的なものをイメージしにくい児童には、「どんな場所か」「どんな感じがするか」など会話することで想像しやすいようにする。

○生きものに見立てながらも、描くことに迷いがある児童には「目」を置かせ、そこから想像を広げるようにする。



○付箋に書いてワークシートにはることで次時の活動へつながるようにする。

(付箋に書かれた内容)

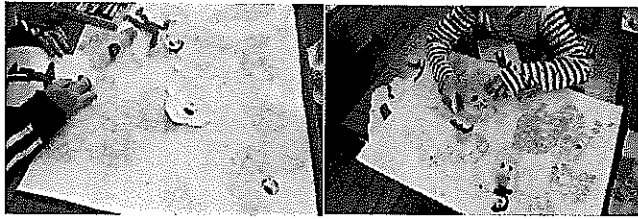
わたしの 水たまりみた じりじり色な
のはけの いたね! ほろのすはすは
上にできた ... ね。おまけ
しもほしし 行きなほし 主のすはすは
見たいに に見えまほし
みえました ね!

○グループで交流した後、他の友だちのところへ行き、交流するようにする。

◎できた泡の模様から自分の表したいことを思い付くことができる。

☞【発表・活動の様子・ワークシート】

④⑤⑥お話をもとに絵を描きたす。

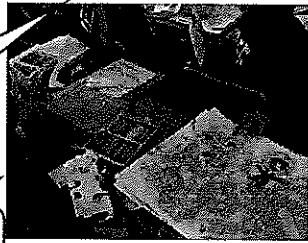


・近くの友だちと交流する。(製作中)

○直接描かずに別紙に描いて切り貼りすることで、加える位置を変更しやすいようにしておく。

○好きな色を選んだり形を考えたりすることができる。 図【活動の様子】

△△ いいね



ここ〇〇したら

どうしようかな

・学級全体で交流する。(授業始め)

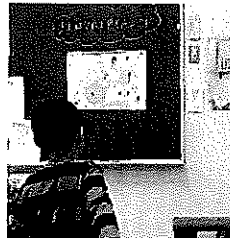
こんなふうにしようと思うけど、どう？

○困ったときは近くの友だちと交流し問題を解決しやすい雰囲気をつくる。



○授業の始めに、見通しをもって取り組めるように友だちの作品を見たり、話し合ったりする時間を確保する。

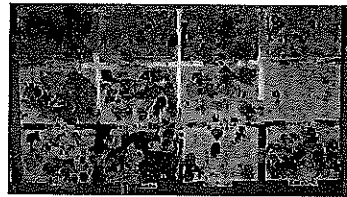
・完成間近の友だち同士で交流する。



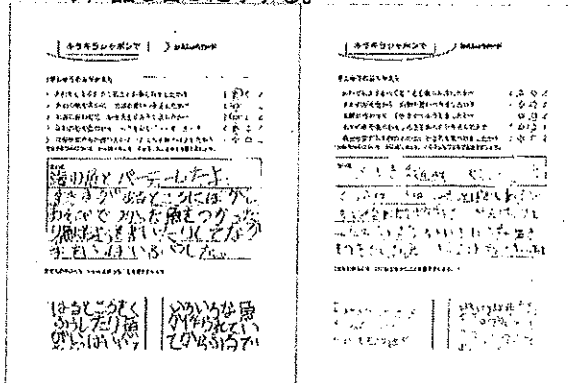
○見つけたお話に合わせて色を選んだり、描き方を工夫したりすることができる。

図【活動の様子・作品】

○自分のイメージにより近づけるために離れたところから作品全体を見たり、友だちの意見を聞いたりするように場を設定しておく。



第3次 自分や友だちの作品の表し方のよさを見つかり、話し合ったりする。



○全体の作品が見えるように掲示し、泡の模様からいろいろなお話ができたことを賞賛するようにする。

○自他の作品に込められた思いについて感じたことが伝えられるように支援する。

○感じたことを話したり、聞いたりしながら形や色、表し方の面白さなどに気付くことができる。

図【活動の様子・ワークシート】

Ⅲ 研究の成果と課題

1 成果

(28人 平成31年1月)

図工は好きか。	好き20 少し好き6 あまり好きでない2 好きではない0
友だちの作品を見るのは好きか。	好き16 少し好き9 あまり好きでない1 好きではない2
作っている途中で友だちの作品を見てみたいと思うか。	見たい18 少し見たい9 見たいと思わない1
作っている途中で困ったときどうしたか。 (困ったことがあった17人) (複数回答)	友だちに聞いた9 友だちのやりかたを見た7 黒板を見た3
手で泡を作って遊んだことについて	もっとやりたかった13 やってよかった13 やらない方がいい1 やりたくなかった1

- ・導入時、「楽しそう」「やってみたい」と思える素材との出会いを工夫したことで、意欲的に活動することができた。見慣れた材料であっても形を変えたり、新たな使い方がありそうだと感じとらせたりすることで「・・・はどうか」「・・・をたしてみよう」等、使い慣れている材料や道具だからこそ、自分なりの工夫をすることができた。
- ・素材を手で触れる体験を十分行うことで、泡の感触をつかむことができたようである。そのため、その後の活動である泡の扱い方に大きな差が見られた。一昨年、泡で遊ぶ活動を行わずに同題材を実施した際は、泡の形がつぶれたり、泡を重ねすぎて流れたりしてしまう児童が思った以上にいた。だが、今年度は、始めから、泡を優しく扱っている印象が強く、一昨年のように泡の形が思うようにでない児童はほとんどいなかった。
- ・見立て遊びを行ってから作品作りに入ったことで、スムーズに作品製作へ移行することができたようであった。また、スケッチメモを使うことで、自分の思いを書き留めておいたり、付箋に書かれた友人の意見を見直したりでき、自分のイメージを確かめることができていた。
- ・表現活動中に交流場面を取り入れたことで、児童同士の対話が生まれ、新たな発想につながったり、つまづきを解決したりすることができた。

2 課題

- ・導入はあまり時間をかけずに行いたい。説明的な部分をいかに短時間で効果的に行っていくか児童の製作意欲を削がないように表現活動へと入れるようにするためにはどうしていけばよいかさらに考えていかなければならない。素材の提示の仕方一つで児童の製作意欲にも差が出る。魅力的な出会いとなるよう今後も工夫していきたい。
- ・スケッチメモは、見る側が作者である児童の思いを知る手掛かりとなるが、活動中に変わっていくことがよくある。そのため、児童がメモに固執されすぎないように配慮していかなければならない。
- ・表現活動途中での交流は、一律に行くと製作意欲の高まりや集中力を妨げることにもなりかねないと思った。事後のアンケート結果からは、友人との交流を望んでいる児童は多いことが分かる。今後も児童の交流の場を適時設けていくようにしていきたい。

※参考資料

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説図画工作編」平成29年7月

